

第29回 PF シンポジウム・ERL シンポジウム開催のお知らせ

PF シンポジウム実行委員長 川崎 政人 (KEK・PF)
ERL 計画推進室長 河田 洋

前号でもお知らせしましたとおり、第29回 PF シンポジウムは、2012年3月15日(木)～16日(金)に開催されます。前回同様、つくば国際会議場(エポカルつくば)での開催となりますので、皆様奮ってのご参加を宜しくお願い致します。

また、前日の3月14日(水)には、同じ会場にて ERL シンポジウムが開催されることが決定致しました。今回は、昨年ノーベル化学賞を受賞された根岸英一先生に特別基調講演を賜る予定です。

今回も、この機会にユーザーグループミーティングが開催できるよう、会場を用意させていただきます。もう少し近くなりましたら、ユーザーグループミーティング開催に関するアンケートを取りますので、御協力のほどよろしくお願い致します。

参加申し込み方法、プログラム等については、詳細が決まり次第ホームページや PF ニュースで皆様にお知らせ致します。

PF シンポジウムへのお問い合わせは、PF シンポジウム事務局 pf-sympo@pfiqst.kek.jp まで、ERL シンポジウムへのお問い合わせは、ERL 計画推進室 erl-sec@pfiqst.kek.jp までご連絡下さいますようお願い申し上げます。

物構研シンポジウム'11 「量子ビーム科学の展望-ERLサイエンス と強相関電子構造物性-」開催のお知らせ

物質構造科学研究所 下村 理

物構研では、加速器を用いた量子ビーム(放射光・中性子・ミュオン・低速陽電子)を、共同利用として多くのユーザーに提供し、幅広い研究・利用分野での成果を目指しております。中性子・ミュオン分野では、J-PARCにおける世界最高強度のビームを用いた利用研究によって優れた成果が創出されつつある一方、PFにおいても、次期放射光源として、エネルギー回収型リニアック(ERL)の実現を目指した開発が進められています。今年度で第四回目となる物構研シンポジウムでは、「量子ビーム科学の展望-ERLサイエンスと強相関電子構造物性-」と題して、ERLを使ったサイエンスと、強相関電子構造物性に関しての展

望を御議論頂きたいと考えております。

シンポジウム初日には、ERL計画に関する準備状況の報告に加え、人工光合成や化学反応におけるERLを用いたサイエンスの展望についてお話を頂きます。また、コーネル大学におけるERLプロジェクトの進め方について、今年6月に行われたワークショップ XDL2011 (Science at the Hard X-ray Diffraction Limit) のサマリーを御報告いただく予定です。2日目には、物構研のもつ複数のプローブを相補的に利用して展開しつつある、強相関電子構造物性に関する研究について、4つのセッションを設け、ERLの利用も視野にいたれた将来展望を御議論して頂く予定です。

PFユーザーの皆様には、これまでの物構研シンポジウムと同様に、是非積極的にご参加いただき、活発な議論を展開していただきけることを期待しております。また、ポスターセッションも行いますので、奮ってポスター発表にも御応募ください。

会議要項

日時: 2011年12月6日(火)、7日(水)

場所: つくば国際会議場(エポカルつくば)

主催: 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所
協賛: 日本物理学会、日本放射光学会、日本中性子科学会、日本中間子科学会、日本結晶学会、日本高圧学会、日本表面科学会、日本陽電子科学会

参加費: 無料

参加申込方法: シンポジウムホームページの参加申込フォームにてお申込下さい。旅費、宿泊を伴わない参加申込は当日まで受け付けます。

懇親会: 12月6日(火) 会費は別途徴収。

問い合わせ先: 物構研シンポジウム'11事務局 (imss-sympo@pfiqst.kek.jp)

シンポジウムホームページ: <http://imss-sympo.kek.jp/2011/>

プログラム:

12月6日

1. オープニング

2. ERLサイエンス

ERL計画

「全体計画」河田 洋、「ハードウェア」小林 幸則、
「サイエンスケース」足立伸一、「人工光合成・触媒」
阿部 竜(北大)、「化学反応」Lin X. Chen
(Argonne National Laboratory)

XDL2011のサマリー Sol Gruner (Cornell University)

3. ポスターセッション

懇親会

12月7日

4. 強相関電子系における構造物性先端研究
 - 1) 電子自由度の秩序構造 (DL: 中尾 裕則)
山崎 裕一 (KEK 物構研), Di-Jing Huang (NSRRC),
J. G. Park (Seoul National University)
 - 2) 表面・界面における電子相関効果 (DL: 雨宮 健太)
組頭 広志 (KEK 物構研), 山本 達 (東大物性研),
岩佐 義宏 (東大)
 - 3) 有機エレクトロニクス (DL: 熊井 玲児)
F. L. Pratt (ISIS, RAL), 堀内 佐智雄 (産総研),
竹谷 純一 (大阪大学)
 - 4) ソフト・バイオマターの秩序と乱れ (DL: 瀬戸 秀紀)
小貫 明 (京大), 原田 慈久 (東大), 片岡 幹雄 (奈良
先端大), 川崎 政人 (KEK 物構研)
5. クロージング

「International Workshop on Improving Data Quality and Quantity for XAFS Experiments (Q2XAFS 2011): XAFS 分光の高度化と標準化に関する国際会議」のお知らせ

放射光科学第二研究系 阿部 仁

東日本大震災のため延期となった Q2XAFS 2011 は、いよいよ 2011 年 12 月 8 日、9 日に開催されます。日本から XAFS のさらなる発展を発信する重要な会議ですので、奮ってご参加下さい。世界中から著名な研究者が多数参加、議論する貴重な機会と思います。

X線吸収微細構造 (X-ray Absorption Fine Structure, XAFS) 法は、材料、バイオ、環境など様々な分野での応用が進んでおり、あらゆる分野での分析に対応するために多様な測定・解析手法が発展してきました。一方で、XAFS の測定・解析手法については世界共通の“スタンダード”の確立・浸透に至っていないのが現状です。そのため、放射光施設が違えば測定のセットアップも異なり、データフォーマットも統一されていません。このことは、複数の放射光施設で測定したデータの比較をする際の障害となっている上、これから XAFS を始めようという研究者に混乱を与えるという問題も引き起こしています。本ワークショップでは、XAFS の測定手法や解析手法の標準化を目指し、それぞれの分野での第一人者を世界中から招待し、最先端の XAFS に関する研究報告とともに、今後の XAFS 測定・解析手法の正しい発展について議論します。この結果は報告案としてまとめ、公表する予定です。

Web には既に招待講演者リストが掲載されていますが、これだけのメンバーが 1 つのセッションに会するのは非常に貴重な機会かと思えます。是非多くの皆様をご参加下さいますようお願い申し上げます。また、本ワークショップでは、若手研究者の発表の場としてポスターセッション

を設けています。活発な議論がなされるものと期待されます。その他詳細については Web (<http://pfwww.kek.jp/Q2XAFS2011/>) をご覧下さい。

会議要項

日時: 2011 年 12 月 8 日 (木), 9 日 (金)
場所: 高エネルギー加速器研究機構 小林ホール
共催: IUCr XAFS and SR Commissions, IXAS, 日本 XAFS 研究会, 高エネルギー加速器研究機構
協賛: 井上科学振興財団, つくば市, 国際科学振興財団, フォトンファクトリー
後援: 日本放射光学会, 日本化学会, 日本結晶学会, 日本物理学会, 応用物理学会, 日本表面科学会, 触媒学会
参加費: 一般 22,000 円, 学生 12,000 円 (10/1 以降)
※参加費には懇親会費, コーヒーブレイク等が含まれています。

参加申し込み方法: Web (<http://pfwww.kek.jp/Q2XAFS2011/registration.html>) より登録をお願いします。(最終締切 11/30)

問い合わせ先: Q2XAFS2011 事務局 q2xafs@pfqst.kek.jp

講演者: Isabella Ascone (ENSCP), Christopher T. Chantler (Univ. of Melbourne), Graham George (Univ. of Saskatchewan), Pieter Glatzel (ESRF), James Hester (ANSTO), Britt Hedman (Stanford Univ.), Keith Hodgson (Stanford Univ.), Peter A. Lay (Univ. of Sydney), Augusto Marcelli (INFN), Sofia Diaz-Moreno (Diamond), Matthew Newville (Univ. of Chicago), Masaharu Nomura (Photon Factory), Sakura Pascarelli (ESRF), Bruce Ravel (NSLS), Ronald Frahm (Univ. of Wuppertal), Bernd Johannessen (Australian Synchrotron), Olga Safonova (Paul Scherrer Institut), Gopinathan Sankar (The Royal Institution of Britain), V. Armando Sole (ESRF), Edmund Welter (DESY)

大学共同利用機関シンポジウム 2011

KEK を含む、全国の大学共同利用機関が日々行っている最先端の研究をより多くの皆様に知って頂き、ご理解とご支援をいただくための取り組みの一環として、「大学共同利用機関シンポジウム 2011」を開催致します。KEK からは、鈴木機構長による講演「加速器で見る宇宙・物質の変遷」と KEK の行っている最先端科学の展示を予定しています。

記

大学共同利用機関シンポジウム 2011

「万物は流転する」- 宇宙・生命・情報・文化の過去・現在・未来 -

日時: 2011 年 11 月 26 日 (土) 12:00 ~ 17:00

場所: ベルサール秋葉原 2F イベントホール

入場料: 無料

ホームページ: <http://int-univ-symp2011.kek.jp/>

平成 24 年度前期 フォトン・ファクトリー研究会の募集

放射光科学研究施設長 若槻壮市

物質構造科学研究所放射光科学研究施設（フォトン・ファクトリー）では放射光科学の研究推進のため、研究会の提案を全国の研究者から公募しています。この研究会は放射光科学及びその関連分野の研究の中から、重要な特定のテーマについて1～2日間、高エネルギー加速器研究機構のキャンパスで集中的に討議するものです。年間6件程度の研究会の開催を予定しております。

つきましては研究会を下記のとおり募集致しますのでご応募下さいますようお願いいたします。

記

- 開催期間 平成24年4月～平成24年9月
- 応募締切日 平成23年12月16日（金）
〔年2回（前期と後期）募集しています〕
- 応募書類記載事項（A4判、様式任意）
 - 研究会題名（英訳を添える）
 - 提案内容（400字程度の説明）
 - 提案代表者氏名、所属及び職名（所内、所外を問わない）
 - 世話人氏名（所内の者に限る）
 - 開催を希望する時期
 - 参加予定者数及び参加が予定されている主な研究者の氏名、所属及び職名
- 応募書類送付先（データをメールに添付して送付）
放射光科学研究施設 主幹秘書室 森 史子
Email: pf-sec@pfqst.kek.jp
TEL: 029-864-5196

なお、旅費、宿泊費等については実施前に詳細な打ち合わせのうえ、支給が可能な範囲で準備します（1件当たり上限50万円程度）。開催日程については、採択後にPAC委員長と相談して下さい。

また、研究会の報告書をKEK Proceedingsとして出版していただきます。

先端研究施設共用促進事業「フォトンファクトリーの産業利用促進」課題募集

平成24年4月～6月期に利用開始するトライアルユース課題を募集しています。課題申請書の提出期限は平成24年1月16日（月）17時です。課題が採択されると、平成24年4月から最長1年間放射光研究施設を無償で利用することができます。留保ビームタイムの余裕がある場合、24年1月から利用できる可能性もありますので、早期の実験開始を希望される方は共用促進リエゾンにお問い合わせ下さい。応募希望の方もご連絡をお願い致します。

共用促進リエゾン 阿刀田伸史

(Email: natoda@post.kek.jp, TEL: 029-864-5298)

詳細は <http://pfwww.kek.jp/innovationPF/> をご覧下さい。

喫茶室・風来夢（プライム）オープン

このたび、職員及びユーザーの皆様の利便性を図るため喫茶室を再オープンすることとし、国際交流センター内で下記のとおり営業を開始しましたのでご利用下さい。

営業時間等詳細は p79 をご覧下さい。メニューは <http://www-local.kek.jp/jinji/kyosai/kissamenu.pdf> に掲載されております。

予 定 一 覧

2011 年

- | | |
|----------|---|
| 11月26日 | 大学共同利用機関シンポジウム2011「万物は流転する」-宇宙・生命・情報・文化の過去・現在・未来-（ベルサール秋葉原2F イベントホール） |
| 12月6日～7日 | 物構研シンポジウム'11（エポカルつくば） |
| 12月8日～9日 | Improving the data quality and quantity for XAFS experiments（Q2XAFS）（KEK 小林ホール） |
| 12月16日 | 平成24年度前期フォトン・ファクトリー研究会公募締切 |
| 12月22日 | PF, PF-AR 平成23年第二期ユーザー運転終了 |

2012 年

- | | |
|-----------|---|
| 1月6日～9日 | 第25回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム（鳥栖市民文化会館・中央公民館） |
| 1月6日 | PF懇談会臨時総会（鳥栖市民文化会館・中央公民館） |
| 1月16日 | 先端研究施設共用促進事業「フォトンファクトリーの産業利用促進」課題応募締切 |
| 1月16日 | PF 平成23年第三期ユーザー運転開始 |
| 1月20日 | PF-AR 平成23年第三期ユーザー運転開始 |
| 3月14日 | PF, PF-AR 平成23年第三期ユーザー運転終了 |
| 3月14日 | ERL シンポジウム（エポカルつくば） |
| 3月15日～16日 | 第29回PFシンポジウム（エポカルつくば） |

運転スケジュール(Dec. 2011～Mar. 2012)

E : ユーザー実験 B : ボーナスタイム
M : マシスタディ T : 立ち上げ
MA : メンテナンス HB : ハイブリッド試験運転

12月	PF	PF-AR	1月	PF	PF-AR	2月	PF	PF-AR	3月	PF	PF-AR
1(木)	M		1(日)			1(水)	E	E	1(木)	M	M
2(金)			2(月)			2(木)	M	M	2(金)		
3(土)	E	E	3(火)			3(金)			3(土)	E	E
4(日)			4(水)			4(土)	HB	E	4(日)		
5(月)			5(木)			5(日)			5(月)		
6(火)	B	B	6(金)			6(月)			6(火)	B	B
7(水)	E	E	7(土)	STOP	STOP	7(火)	B(HB)	B	7(水)		
8(木)	M	MA/M	8(日)			8(水)	HB		8(木)		
9(金)			9(月)			9(木)	M		9(金)		
10(土)	E	E	10(火)			10(金)			10(土)	E	E
11(日)			11(水)			11(土)	E	E	11(日)		
12(月)			12(木)			12(日)			12(月)		
13(火)	B	B	13(金)			13(月)			13(火)	B	B
14(水)	E		14(土)			14(火)	B	B	14(水)		
15(木)	M		15(日)			15(水)	E	E	15(木)		
16(金)			16(月)			16(木)	MA/M	MA/M	16(金)		
17(土)	E	E	17(火)	T/M		17(金)			17(土)		
18(日)			18(水)			18(土)	E	E	18(日)		
19(月)			19(木)			19(日)			19(月)	STOP	STOP
20(火)			20(金)			20(月)			20(火)		
21(水)			21(土)	E	T/M	21(火)	B	B	21(水)		
22(木)			22(日)			22(水)	E		22(木)		
23(金)			23(月)		E	23(木)	M		23(金)		
24(土)			24(火)	B	B	24(金)			24(土)		
25(日)			25(水)	E		25(土)	E	E	25(日)		
26(月)	STOP	STOP	26(木)	M		26(日)			26(月)		
27(火)			27(金)			27(月)			27(火)		
28(水)			28(土)		E	28(火)	B	B	28(水)		
29(木)			29(日)	E		29(水)	E	E	29(木)		
30(金)			30(月)						30(金)		
31(土)			31(火)	B	B				31(土)		

注)ハイブリッド試験運転:従来のsingle bunchに加えてmulti bunchを同時に蓄積するモード。

スケジュールは変更されることがありますので、最新情報はPFホームページ(<http://pfwww.kek.jp/indexj.html>)の「PFの運転状況/長期スケジュール」(<http://pfwww.kek.jp/unten/titlej.html>)をご覧ください。